

大阪

地域面 3 ページ

おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)

毎日新聞社会部おおさか支局

TEL 06・6346・8443

FAX 06・6346・8444

メールはat-osaka@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げてほしいテーマなど、お寄せください。

【購読お申し込み】

フリーダイヤル 0120-468012

星の占い
マーク・矢崎
8日

ご近所のお医者さん

535

関西医科大付属病院 小児科准教授 **大橋敦さん** 一枚方市



病院×老舗醤油会社

広島県福山市沖野上町の脳神経センター大田記念病院が、市内にある老舗醤油会社とだし製造販売会社の協力を得て、「大田記念病院が考えた、だしつゆ」を開発した。写真。しょうゆから塩分を40%カットした逸品で「忙しい人でも手軽に健康食を」と呼びかけている。

「たまごにかけるお醤油」

管理栄養士が監修

のヒット商品で知られる「中患者らに提供する病院食のノウハウを生かし、レシ887年創業の「寺岡有機」を出版。患者家族にパランスの良い食事を提案する国展開する「カネソ22」が、だしつゆの共同開発を依頼した。管理栄養士が監修し、約2年をかけて干しなど国産だし原料と有機しょうゆを使用。通常の0.00%が348円、50濃い口醤油(塩分17.5%) 0.00%が498円。問い合わせから塩分を4割減らし、めせは寺岡有機醸造お客様相談室(0120・511・549)。

【関東普慈】

新生児蘇生法

多くの方は、赤ちゃんは「オギャー」と元気に泣いて生まれてくるのが普通と思っておられるかもしれませんが、ところが実際には、約10%の赤ちゃんは生まれてすぐには自力で泣き出すことができません。その際は、分娩に携わる助産師さんや産婦人科の先生が赤ちゃんの口の中にある羊水などの分泌物を吸引したり、赤ちゃんの背中や足の裏を刺激したりすることで、多くの赤ちゃんは元気に泣き出してくれます。しかし、

赤ちゃんの危険に備え

「人工呼吸」ができれば、多くの赤ちゃんは泣き出してくれるので、ホッとします。

「人工呼吸」は救急蘇生処置であり、高度な技術と的確な判断が求められますので、トレーニングを受けることな

く適切に「人工呼吸」を行うことは困難です。この「人工呼吸」の手法や知識である新生児蘇生法の普及に向け、医師会や大学付属病院、総合病院など

一部の赤ちゃんは助産師さんたちによる背中などへの刺激だけでは泣き出してくれないので、「人工呼吸」が必要になります。赤ちゃんが元気に泣いてくれないと助産師さんや産婦人科の先生は一瞬ヒヤリとするのですが、適切に

で講習会が開催されています。実はこの新生児蘇生法の歴史は浅く、2007年に始まったばかりなのですが、現在は広く浸透し、自力でうまく泣き出せない赤ちゃんに対して当たり前「人工呼吸」が行われるようになってきました。最近では、助産師さん以外に救急救命士・救急隊員の方にも新生児蘇生法の講習会を受講してもらっています。それは、自宅でも急いで、陣痛が来

て、病院に行けず自宅出産してしまう妊婦さんに対応していただくためです。また、医学生や看護学生が授業の一環で新生児蘇生法を学んでいる施設も多くあります。

分娩に携わるすべての職種に新生児蘇生法が普及し、すべての赤ちゃんが生まれてすぐに元気に泣き出して、お母さんに抱っこしてもらえ、日が早く訪れることを願っています。